

国語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	国語 002-72・002-82・002-92	B 5 938	令和 6 年
15	三省堂	三省堂◆	国語 015-72・015-82・015-92	B 5 1,098	
17	教育出版	教 出◆	国語 017-72・017-82・017-92	B 5 1,087	
38	光村図書出版	光 村◆	国語 038-72・038-82・038-92	B 5 1,028	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

中学部 国語(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	三省堂	教出	光村
2箇所		1箇所	3箇所	1箇所	
内容	聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①聴覚障害の理解にかかわる記述があるもの。	①1年「多様性と共生社会」では、聴覚障害のある著者の作品を通して多様性や共生社会について考える活動を示している。(P220-226)	①3年「小さな図書館」では、聴覚障害の視点からユニバーサルデザインに関して著述した図書を紹介している。(P244)	①3年「広がる本の世界6」では、視力と聴力を失った筆者にととのコミュニケーションに関する図書を紹介している。(P208)	①2年「本で世界を広げよう」では、聴覚障害の著者による社会への提言に関する図書を紹介している。(P200)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	26箇所 ①1年「朗読の世界」では、朗読の際の抑揚の付け方やイントネーションについての学習活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P16-25) ②2年「『地域の魅力』の紹介文」では、地域の人などにインタビューをする活動があり、学習の際に特別な支援が必要である。(P69) ③3年「論語」では、歴史的仮名遣いによる教材文を読む学習があり、読解の際に説明が必要である。(P148-149)	24箇所 ①1年「構成を工夫して魅力を伝える」では、自分の声を通して思いや考えを伝える学習活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P110-113) ②3年「パブリックスピーキング」では、聞き手の状況に応じて声の大きさを調整して話すなどの活動があり、学習の際に特別な支援が必要である。(P112-115) ③3年「和歌の世界－万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」では、特徴的な言い回しを多用した和歌を詠む学習があり、読解の際に説明が必要である。(P118-123)	28箇所 ①1年「日本語の音声」では、イントネーションと伝え方の工夫についての学習活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P269) ②2年「様々な考えを踏まえ討論をする」では、施設の職員の立場になって意見を出したり地域の中で話し合いをしたりする活動があり、学習の際に特別な支援が必要である。(P236) ③1年「方言と共通語」では、同じ内容を各地の方言で書き表した文を読み比べる学習があり、読解の際に説明が必要である。(P263)	22箇所 ①1年「聞き上手になろう」では、声の大きさや間の取り方を意識して質問する活動が示しており、取り扱う際に配慮が必要である。(P122-123) ②2年「聞き上手になろう」では、夢中になっていることや気になるニュースをテーマにインタビューをする活動があり、学習の際に特別な支援が必要である。(P116-117) ③3年「学びて時に之を習ふ」では、歴史的仮名遣いによる教材文を読む学習があり、読解の際に説明が必要である。(P38-40)
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 ②聴覚の障害による読解への配慮として、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	①2年「経節－世界に誇る伝統食」では、経節の製法について視覚的に示している。(P79-80) ②単元の要所に、「言葉の力」として、学習のポイントを枠囲みで簡潔に記している。(1年P32など)	①1年「竹取物語」では、単元の最後に、物語の展開を絵巻で視覚的に示している。(P128-129) ②教材文の最後に、「学びの道しるべ」として、学習のポイントを簡潔に記している。(2年P24-25など)	①3年「旅への思い－芭蕉と『おくのほそ道』」では、芭蕉の旅を旅程図で視覚的に説明している。(P120-121) ②教材文の最後に、「みちしるべ」として、学習のポイントを簡潔に記している。(1年P44など)	①1年「意見と根拠」では、意見と根拠の結び付きについて視覚的に説明している。(P138-139) ②単元の要所に、「学びのカギ」として、学習のポイントを枠囲みで簡潔に記している。(2年P27など)
参考	神話や伝承を知り、日本文化や伝統に興味を持たせる資料	あり	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし	あり	なし

中学部 国語(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	三省堂	教出	光村
13箇所		17箇所	19箇所	17箇所	
内容	肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①学校生活や社会生活に身近な題材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの。	①1年「私たちの未来」では、中学校に入学したばかりの生徒の心情という、身近な内容を教材文として取り上げている。(P40-45) ②1年「未来を考える本」では、車椅子生活を送る筆者の作品を取り扱っている。(P228)	①3年「自分自身や社会を見つめる」では、自分自身のことや社会生活を振り返り、漢字一字で表現する活動を取り上げている。(P146-147) ②2年「小さな手袋」では、脳卒中のため右手と右足が不自由になってしまった人物との交流を取り扱っている。(P70-79)	①2年「SNSから自由になるために」では、SNSの利用によるトラブルやその回避方法について取り上げている。(P86-87) ②2年「夢を跳ぶ」では、下肢に障害のあるパラリンピアンを取り扱っている。(P74-78)	①2年「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」では、災害時における各メディアの情報発信の特徴を比べる活動を取り上げている。(P76-P79) ②3年「考えを効果的に伝えよう」では、ヘルプマークを題材として取り扱っている。(P138-139)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの。 ③集団で行う活動など、生徒数が少ないため取り扱いに工夫が必要であるもの。	43箇所 ①3年「時を超える手紙」では、推敲した手紙の下書きを、丁寧に清書する活動があり、上肢の操作性等から、取り扱う際に配慮が必要である。(P200) ②1年「情報の分類・比較」では、サッカー部の大会会場までの移動手段についての比較検討を題材としており、取り扱う際に配慮が必要である。(P66-67) ③3年「読書会の方法」では、四人程度のグループを作って話し合う活動があり、学習集団の規模によっては、取り扱う際に配慮が必要である。(P80)	43箇所 ①2年「類義語・対義語、多義語」では、語の用法の意味を辞書を使って調べる活動があり、上肢の操作性等から、取り扱う際に配慮が必要である。(P169) ②1年「三角ロジックで論理的思考力を鍛えよう」では、自転車の免許制を題材に思考を組み立てる活動が例示しており、取り扱う際に配慮が必要である。(P107) ③1年「一年間の自分とクラスを振り返って」では、四、五人のグループで情報交換をする活動が示しており、学習集団の規模によっては、取り扱う際に配慮が必要である。(P223)	40箇所 ①2年「手紙・メールを整える」では、封筒やはがきを、紙面の広さを考えながら書く活動があり、上肢の操作性等から、取り扱う際に配慮が必要である。(P70) ②1年「資料をもとに紹介文を書く」では、サッカー選手を紹介する文章を題材例としており、取り扱う際に配慮が必要である。(P47) ③3年「ビブリオバトルで本の世界を広げよう」では、参加者が本の魅力を紹介し合う活動があり、学習集団の規模によっては、取り扱う際に配慮が必要である。(P56-57)	43箇所 ①2年「読書を楽しむ」では、紹介したい言葉や情報をカードにまとめてポスターに貼る活動があり、上肢の操作性等から、取り扱う際に配慮が必要である。(P82) ②1年「本の中の中学生」では、陸上部の長距離選手の視点から描かれた物語を題材としており、取り扱う際に配慮が必要である。(P86-87) ③3年「聞き上手になろう」では、3～4名で役割を決め対談の準備をする活動が示しており、学習集団の規模によっては、取り扱う際に配慮が必要である。(P124-125)
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②体験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①単元の最後に、「言葉の力」として学習のポイントを枠囲みで簡潔に記している。(1年P32など) ②1年「私のタンポポ研究」では、日本在来のタンポポや外来タンポポ、発芽したタンポポの種子の写真を示している。(P118-125) ③3年「おくのほそ道」では、旅の行程を示した地図を、見開きページで大きく示している。(P140-142)	①読む学習の最後に、「学びの道しるべ」として、学習のポイントをまとめて記している。(1年P34など) ②2年「壁に残された伝言」では、実際に資料館に展示されている壁の写真等を示している。(P81、P85) ③3年「『批判的に読む』とは」では、文章の例とともに読み方の解説を色分けして見開きページで示している。(P52-54)	①読む学習の冒頭に「学びナビ」、最後に「みちしるべ」として、学習のポイントを記している。(1年P36-37、P44など) ②3年「コミュニケーションの場を考える」では、場に応じた表現や話題についてイラストで視覚的に説明している。(P202) ③2年「学びのチャレンジ」では、生徒会役員選挙の候補者の得票数と当選者一覧を見開きページで示している。(P216-217)	①各単元の最後に、「学びのカギ」として学習のポイントを枠囲みで簡潔に記している。(1年P29など) ②1年「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」では、シジュウカラや森に設置された巣箱の写真を示している。(P128-129) ③3年「つながる古典」では、ジャンルや時代を超えた古典作品同士のつながりを、絵を用いて見開きページで示している。(P166-167)
参考	神話や伝承を知り、日本文化や伝統に興味を持たせる資料	あり	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり
	障害者理解に関する扱い	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし	あり	なし